

愛馬の健康管理は予防接種から

馬インフルエンザ・日本脳炎・破傷風の予防接種を実施しましょう。

はじめに

馬の感染症には、インフルエンザのように一旦発生すると爆発的に流行する伝染病から、破傷風のように単発的にしか発生しないものの、発症すると命を落とす病気まで、色々な種類があります。馬は集団で飼養管理されており、運営上非常に能率的な反面、伝染病が流行しやすい飼養形態になっています。馬で発生する伝染病のほとんどはウイルスが病原体です。ウイルスに直接効く薬は人ではインフルエンザなどに应用されていますが、馬では今のところありません。ですから、馬が伝染病に罹らないように、また伝染病が発生しても最小限に被害をくい止められるようにするには、予防するしかありません。予防には、一般的にワクチン接種が有効と言われています。もちろん全ての馬の感染症に対し、有効なワクチンが開発されているわけではありません。しかし、監視伝染病の中でも馬インフルエンザ、日本脳炎および破傷風については、古くからワクチンが実用化されており、その効果が発揮されております。乗馬をはじめ馬関係者におかれましては、これら感染症から愛馬を守るために予防接種を受けるように心がけてください。

監視伝染病とは？

監視伝染病とは、家畜伝染病予防法という法律で定められた家畜伝染病と届出伝染病との総称です。家畜伝染病はいわゆる法定伝染病のことであり、馬伝染性貧血や流行性脳炎(日本脳炎)など馬では8種類があります。届出伝染病には馬インフルエンザや破傷風など馬では13種類がこれにあたります。これらの伝染病が発生した場合には、直ちに都道府県知事(家畜保健衛生所)に届出ることと定められています。

馬の監視伝染病の中で特に重要なものについて、以下に説明します。

馬インフルエンザ

強力な感染性と伝播力をもつA型インフルエンザウイルスによっておこる呼吸器感染症で、咳やくしゃみなどにより空気感染します。1991年には香港でインフルエンザが流行し、1ヶ月間競馬が中止になりました。わが国でも1971年12月に大流行して約7,000頭の馬が感染し、翌年にかけて約2ヶ月間の競馬開催の中止を余儀なくされました。また、世界各国では毎年インフルエンザの流行が報告されています。

症状としては、40前後の高熱、沈うつ、食欲低下、強い咳、鼻水などを認め、重症では肺炎を併発することもあります。

日本脳炎

日本脳炎ウイルスの感染によって起こる人および家畜に共通の急性伝染病で、蚊(主にコガタアカイエカ)の媒介によって流行します。自然界では豚の体内でウイルスが増幅され、豚の血液を吸った蚊を通して馬や人に伝播されるといわれています。

重症例では40 前後の高熱がみられ、頭部を下げて日光を避けて壁に寄りかかる沈うつ状態(麻痺型)、あるいは前がきや旋回運動を繰り返し、時には狂そう状態(興奮型)を示し、斃死することもあります。軽症例では数日間の発熱がみられた後に回復しますが、後躯の麻痺が残ることもあります。

破傷風

土壌中に生息している破傷風菌の感染によって起こり、傷口から感染した菌が体内で増殖して毒素を産生します。この毒素が運動中枢神経を侵すことにより、筋肉の痙攣や硬直を起こす急性の感染症です。人や他の動物にも感染しますが、馬はこの病気に対して最も感受性が高い動物として知られています。

感染した馬は通常 4~5 日の潜伏期の後、まず眼に症状が現れます。すなわち、瞬膜の痙攣や縮瞳を起こし、次いで咬筋の痙攣や舌の運動障害による咀嚼困難がおこります。経過が進むにつれて心拍数や呼吸数は増加し、全身の筋肉の痙攣や硬直が起こり、全身性の発汗が著しくなります。外的刺激に対しても極めて鋭敏になり、やがて呼吸困難となって死亡します。

馬伝染性貧血

いわゆる「伝貧」のことですが、軍馬華やかかりし頃は、毎年数万頭の馬が伝貧のために殺処分されてきました。その後発生頭数は減り、1993年の2頭を最後に発生は認めておりません。伝貧ウイルスは人のエイズウイルスに非常に似ていて、血液を介して感染します。主な症状は貧血と発熱ですが、この発熱は回帰熱と呼ばれ40 前後の発熱が1週間から10日間隔で繰り返すのが特徴的です。

ワクチンも治療法も開発されておらず、わが国では診断された時点で殺処分されます。

予防接種を受けるには？

お近くの獣医師に相談して受けて下さい。予防接種を受けたときは、いわゆる「馬の健康手帳」に接種した旨の証明を獣医師にしてもらう必要があります。軽種馬防疫協議会が推奨している接種方法は次のとおりです。

馬インフルエンザ

初年度は2ヶ月未満の間隔で2回接種し、以降は一定のレベルの抗体価を保持するために、半年に1回の補強接種が推奨されます。予防接種は、一年を通じていつでも実施できますが、春期と秋期の集団接種を心がけて下さい。

日本脳炎

ワクチン製造業者の違いにより、接種量や回数が若干異なりますが、1回の接種では十分な予防効果が得られないこともあります。毎年、2ヶ月未満の間隔で2回接種が推奨されます。日本脳炎が発生する可能性が高い時期を考慮し、接種しなければなりません。最も高い効果を保つためには、5月から6月頃に接種することが望まれます。

破傷風

初年度は2ヶ月未満の間隔で2回接種し、以降は年1回の補強接種が推奨されます。予防接種は、一年を通じていつでも実施できます。

馬の移動について

日本中央競馬会(JRA)の施設に入りゆうする場合には、事前に入りゆう届を提出していただき、書類検査を実施しています。また、入りゆう時には馬の健康手帳(馬名・性・生年月日・品種・毛色・産地・特徴及び所有者が記載されたもの)を必ず携行して下さい。手帳には馬伝染性貧血検査、予防接種等の証明が記載されていること、輸入馬については輸入検疫証明書(原本あるいは写し)が添付されていることを確認してください。詳しくはJRA ホームページ <http://www.jra.go.jp/bajikouen/html/todoke.html> に掲載されている『日本中央競馬会の施設を利用する場合の注意事項について(利用者心得)』をご覧ください。

おわりに

我が国においては、1971年の馬インフルエンザの大流行以来、馬の伝染病の流行は認められていません。しかしながら、馬の国際的な交流が活発化している今日、海外からの伝染病の侵入機会も益々増加することが危惧されます。平穏な今こそ、予防接種の大切さを考える必要があるのではないのでしょうか。JRAの施設に入りゆうするための予防接種ではなく、**愛馬を伝染病から守るための予防接種ということ**を。

馬事公苑診療所

松田芳和